北区の部屋だより

2024年1月 第173号

刊行物登録番号 4-2-135

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　令和 6 年 1 月発行

北区こぼれ話 第173回

陸軍被服本廠の宣誓は膝丈スカートで
―女子挺身隊入所式の写真を考える―

この写真をご覧ください。膝丈スカート姿の女性が、軍人の前で何かを読み上げています。『写真週報』昭和 17 年(1942) 2 月 4 日に大きく掲載された写真です。この本は、戦時中に政府の情報局が発行した週刊のグラフ誌です。記事の内容は、陸軍被服本廠への女子挺身隊入所式について報じたものでした。陸軍被服本廠は、現在のヌーヴェル赤羽台(赤羽台団地)の位置にありました。軍服などを製造する陸軍省直轄の工場です。女子挺身隊は、独身女性のうち、就職せず学校へも通わない人々を募集し、軍工廠などに勤務させるために組織されました。自ら志願することが原則でした。

この写真の説明文は「軍属として入所する彼女たちは軍属の本分を完了すべきことを宣誓する。『しつかりやらう』銃後女性の頼もしい決意が六百の胸に通ふ」という軍国調のものでした。しかし、この写真に違和感を持たれる方も多いでしょう。その違和感は、宣誓をしている女性の服装にあります。戦時中の女性の姿と言えばモンペが一般的です。この女性がモンペ姿であったなら、何の不思議もなかったのです。

では、この写真をどう解釈したら良いのでしょうか。例えば「被服本廠への入所を希望するということは、洋裁やファッションに興味があるオシャレな女性だったのだ」と考えることができます。しかし、深読みすると、この服装は陸軍や情報局の演出であったと解釈することもできます。そもそも『写真週報』は国策宣伝のために刊行された雑誌だからです。この記事では、女子挺身隊について、つぎのように語られています。「映画やデパート廻りに来る日来る日をつぶしてゐたのは遠い夢……生き甲斐これか、教育期間が済んで、それぞれの職場についた彼女たちの感想である」(原文どおり)。 毎日、娯楽や買い物ばかりの日々を送っていた無職の独身女性たちが、軍属として生き甲斐を見つけるというのが、この記事全体を貫くストーリーなのです。つまり、演出として、入所式の段階では、映画やデパート三昧の女性の姿が必要であり、そのような人物像を膝丈スカートという服装で表したと解釈できるのです。深読みのしすぎでしょうか。

【地域資料専門員　黒川徳男】

北区の部屋・今月の展示「北区に残る空襲の痕跡」

【展示期間】 1 月 5 日(金)～1 月 24 日(水)
【展示場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

空襲で被災しながらも今も生い茂る大樹。「戦災樹木」と呼ばれています。JRの新河岸川橋梁に残る被弾の痕。区内にわずかに残る防空壕。昭和 20 年(1945) 4 月 13 日そして 8 月 10 日、北区は大規模な空襲に見舞われました。区内各地には、今も空襲被害の跡とされるものが散在しています。今回の展示では、そのような戦災樹木・防空壕跡・空襲の爪痕についてご紹介します。

◂上田端八幡神社の戦災樹木：空襲の傷痕をふさがれたイチョウ

公開歴史講座・振替開催のお知らせ
「関東大震災から 100 年 ―検証・北区の被災と復興―」

関東大震災から 100 年、北区の被災と復興をさまざまな角度から検証します。

12 月 2 日開催予定で中止となった、公開歴史講座を振り替えて行うこととなりました。
参加者は、前回お申込みされた方が優先となりますが、追加募集もいたしますのでおしらせします。
ぜひお申し込みください。(前回お申込みいただいた方には、別途ご連絡いたします。)

◉**日 時**　令和 6 年 2 月 24 日(土) 14～16 時
◉**場 所**　中央図書館 3 階ホール
◉**講 師**　黒川 徳男　地域資料専門員
◉**対 象**　北区在住・在勤・在学で中学生以上
◉**募 集**　10 名程度(追加募集・抽選あり)
◉**〆 切**　令和 6 年 2 月 5 日(月)必着

◉**申 込**　往復はがきにて下記必要事項を記入の上、期日に間に合うよう投函してください。
★往信用裏面 ： 講座名、郵便番号、住所(在勤・在学地)、氏名(よみがな必須)、年齢、電話番号
★返信用表面 ： 申込む方の住所、氏名
※視覚障害・聴覚障害のある方は電話・ファクスにてお申込み可。
※障害のある方で付添いが必要な方は付添人 1 名まで可(申込時、その旨記入のこと)
※会場にヒアリングループ補聴援助システム設置あり

◉**宛 先**　〒114-0033 北区十条台 1-2-5 北区立中央図書館・図書係
TEL:03-5993-1125 ／ FAX:03-5993-1044

＊＊＊ 地域資料・今月の一冊 ＊＊＊
「音無橋、たもと屋の純情 ―旅立つ人への天津飯―」

書誌番号　B12727805
著者　竹岡葉月
発行　集英社 (オレンジ文庫)

―――北区・音無橋のそば。生死不問でご来店お待ちします。―――

会社になじめず、身も心も疲れ果てた凜々が訪れた「たもと屋」は、音無橋近くにある定食屋です。不愛想でも面倒見のいい店主と、個性的で訳アリな常連と、心残りのある死者たちと。生きた人とそうでない人たちがおりなす、ちょっと不思議でせつない物語。

音無橋は北区役所の近く、音無川に架かる橋です。王子界隈が舞台となっており、王子駅、飛鳥山、都電荒川線など、なじみある名称がたくさん出てきます。さりげなく音無川の歴史にも触れていたり、登場人物の視点で描かれる王子・飛鳥山界隈の描写には、「そうそうそう！」とその情景がリアルに目に浮かぶのではないでしょうか。

興味を持たれた方がいましたら、ぜひご一読ください。